



セカンド・パーティ・オピニオン SECOND PARTY OPINION

株式会社ダイキアクス サステナビリティファイナンス実行後 定期レビュー

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2022 年 4 月 25 日

Ref. Nr.: PRJN-289367-2021-AST-JPN-1

目次

I 目的とスコープ	4
II プロジェクト概要	5
III ダイキアクス及び DNV の責任	7
IV DNV 意見の基礎	7
V 評価作業	8
VI 観察結果と DNV の意見	9
スケジュール-1 ダイキアクス スステナビリティファイナンス 充当プロジェクト詳細及び資産概要	14
スケジュール-2 ダイキアクススステナビリティファイナンス適格性評価手順	15
SF-1 調達資金の使途	15
SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	17
SF-3 調達資金の管理	18
SF-4 レポーティング	19

発行履歴

発行日	主な変更内容
2020年8月21日	サステナビリティファイナンス実行前 セカンド・パーティ・オピニオン
2021年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> - 水関連インフラ事業における工場建設対象国の追加(インド) - 資金使途の対象プロジェクト分類を追加(太陽光発電事業) - 各基準の改訂・追加に伴う再評価の実施 (グリーンボンド原則：2018年版→2021年版、グリーンローン原則：2018年版→2021年版、ソーシャルボンド原則：2020年版→2021年版、グリーンボンドガイドライン 2020年、グリーンローンガイドライン 2020年版、サステナビリティボンドガイドライン：2018年版→2021年版、気候ボンド基準 3.0版：太陽光関連セクター基準) - スケジュール-3 太陽光関連セクター基準を追加 - スケジュール-4 グリーンローンガイドライン適格性評価を追加 - その他、形式的な変更(DNV GL→DNV への社名変更に伴う変更等)
2022年4月25日 (本報告書)	- サステナビリティファイナンス実行後 定期レビュー(第1回)

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

I 目的とスコープ

株式会社ダイキアックス(以下、ダイキアックス)は、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社 (以下、DNV) に「ダイキアックスサステナビリティファイナンス」の定期レビューの実施を委託しています。DNV における定期レビューの目的は、「ダイキアックスサステナビリティファイナンス」(以下、「このサステナビリティファイナンス」) が、後述するグリーンボンド原則(以下、GBP)、グリーンローン原則(以下、GLP)及び適用可能な気候ボンド基準 3.0 版(セクター技術基準：太陽光関連セクター基準 v2.1)に合致していることを確認するための評価を実施し、このファイナンスの適格性について独立したセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

ダイキアックスは 2020 年 9 月 7 日にサステナビリティファイナンス(新株予約権)、2021 年 10 月 1 日にサステナビリティファイナンス(ローン)を実行しました。2022 年 2 月時点での、このサステナビリティファイナンスの調達額は 19.26 億円(新株予約権：11.26 億円、ローン：8 億円)です。DNV のレビューチームは GBP、GLP やグリーンローンガイドライン(GLGLs)を参照または適用し、2022 年 2 月にこのファイナンスの定期レビューを実施しました。

DNV は、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ オピニオンの提供に際し、ダイキアックスとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。またこの報告書では、サステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

適用される基準もしくはガイドライン

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル
1	グリーンローン原則(GLP)	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2021	適用
2	グリーンローンガイドライン(GLGLs)	環境省、2020	適用
3	グリーンボンド原則(GBP)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照
4	グリーンボンドガイドライン(GBGLs)	環境省、2020	参照
5	ソーシャルボンド原則(SBP)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照
6	サステナビリティボンドガイドライン(SBG)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照
7	気候ボンド基準 3.0 版(CBS) 対象セクター技術基準： 水インフラセクター基準 3.0 版(CBS-WI) 太陽光関連セクター基準 2.1 版(CBS-SE)	気候ボンドイニシアチブ	参照 (適用可能な技術基準)
8	グリーンボンド及びソーシャルボンド：持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場協会(ICMA)、2020	参照
9	インパクトレポート調和化に関する冊子	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照

II プロジェクト概要

ダイキアックスはグループ経営理念として「ダイキアックスグループは、PROTECT×CHANGE『環境を守る。未来を変える。』を使命とし、環境創造開発型企业として発展を続けることで、社員の生活向上及び社会の発展に貢献する。」^{*1}を掲げると共に、具体的な中期経営計画(ESG 経営の推進)^{*2}として、上記の主な事業を通じ、環境分野においては特に、①水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開、②太陽光発電事業や小形風力発電機事業を核とする再生可能エネルギー関連事業に注力しています。

また、ダイキアックスは国連の SDGs を踏まえ、優先的に 6 つの重要課題(マテリアリティ)に取り組んでいます^{*3}。

今回のサステナビリティファイナンスを通じた水関連事業及び再生可能エネルギー関連事業の推進は、直接的、間接的に環境及び社会課題に貢献する取組みです。この事業活動はダイキアックスの定めるグループ経営理念、中期経営計画(ESG 経営の推進)、また SDGs 目標の 6「安全な水とトイレを世界中に」「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13. 気候変動に具体的な対策を」への貢献と密接に関連しています^{*4}。

今回、ダイキアックスがサステナビリティファイナンス(新株予約権)で調達した資金 11.26 億円のうち、水関連インフラ事業の浄化槽製造工場の建設・運営等に 2.24 億円、Water Kiosk 事業に 0.42 億円が充当されたことを確認した。2021 年 10 月 1 日にサステナビリティファイナンス(ローン)で借り入れた 8 億円については、太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等を行う株式会社サンエイエコホームの M&A 資金として、充当されたことを確認した。また、新株予約権行使による調達資金のうち 1.02 億円が、前述ローンへのリファイナンスとして充当されたことを確認した。なお、調達資金の充当状況は、年に 1 回、ダイキアックスのウェブサイトにて報告・公表しています。

充当プロジェクト及び資産の概要は、以下の表-1 及びスケジュール-1 のとおりです。

表-1 充当プロジェクト及び資産概要 (2022年2月末現在)

サステナビリティプロジェクト ポートフォリオ	サステナビリティプロジェクトの充当額及び資産概要 (2022年2月時点)	
環境機器 関連事業 (水関連インフラ事業)	プロジェクト-01 : 浄化槽製造工場の建設・運営等 充当額 : 2.24 億円	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト名: インド新工場建設 - 所在地: インド ハリヤナ州 - 生産品目: 生活排水対応浄化槽 - 生産能力: 約 350 台/年 - 進捗状況: 建設中 (2022年9月稼働予定)
	プロジェクト-02 : 排水処理システムの製造・設置・運 営等(BOO・BOT 事業) 充当無し	概要 : BOO・BOT事業による排水処理システムの提供
	プロジェクト-03 : Water Kioskによるクリーンな飲料 水の供給 充当額 : 0.42億円	<ul style="list-style-type: none"> - 所在地: インド ウッタラーカンド州 - 生産品目: WaterKiosk によるクリーンな飲料水の供給 - 生産能力: 133m³/年 - 稼働状況: 24 基設置
再生可能エネルギー関連事業 (太陽光発電事業)	プロジェクト-04 : 太陽光発電事業の開発・運営・設 備販売等 充当額 : 8 億円	2021年10月1日に、太陽光発電システムの設計・施工・設備販売・維持 管理を行う株式会社サンエイエコホームの株式取得資金に調達資金を充当 保有の太陽光発電施設(FIT による売電) 保有施設数: 24 件/総出力: 3,307kW (2021年10月時点) 【稼働済みの施設】 <ul style="list-style-type: none"> - 電力供給開始施設数: 2 施設 - 電力供給開始施設の出力: 1,082kW 販売した太陽光発電施設(分譲) 保有施設数: 35 件/総出力: 1,564kW (2021年10月時点) 【販売済みの施設】 <ul style="list-style-type: none"> - 販売数: 13 施設 - 総出力: 727.92kW

* 1 : コーポレートスローガン : <http://www.daiki-axis.com/company/index03.html>

* 2 : ESG への取組 <http://www.daiki-axis.com/ir/001/index002.html>

* 3 : ESG 経営の推進、SDGs への取組、2021年12月期第2四半期決算説明会(2021年9月2日)

* 4 : SDGs との関連性は、グリーンボンド原則を定める ICMA が公開している Green, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goals を参照した、グリーンボンド発行に際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

Ⅲ ダイキアックス及び DNV の責任

ダイキアックスは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてダイキアックス及びファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々の提供する意見表明は、ダイキアックスから提供された情報及び事実に依拠にしています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、ダイキアックスの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

Ⅳ DNV 意見の基礎

DNV は、ダイキアックスにとってより柔軟なサステナビリティファイナンス適格性評価手順(以下、手順)を作成するために、GBP、GLP、GBGLs、GLGLs、SBP、SBG をはじめとする各種基準の要求事項を参照したダイキアックスサステナビリティファイナンス評価手順を適用しました。この手順は GBP、GLP、SBP 等の 4 つの核となる要素を参照もしくは適用しています。

DNV のサステナビリティファイナンス評価手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、サステナビリティファイナンスは「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのサステナビリティファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの原則にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、ダイキアックスが適格性を有するサステナビリティファイナンスにより調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境もしくは社会改善効果を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、ダイキアックスが、サステナビリティファイナンス調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、サステナビリティファイナンス調達資金がダイキアックスによって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金(新株予約権行使後もしくはローン実行～プロジェクト充当までの期間)がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポーティング**：レポーティングの基準は、サステナビリティファイナンスへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V 評価作業

DNV の評価作業は、ダイキアックスによって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

追加アセスメント(アセスメント報告書の改訂に伴う追加アセスメント) *本報告書には含まれません

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、ファイナンスへの適用を目的としたダイキアックス特有の評価手順の作成。
- このサステナビリティファイナンスに関してダイキアックスより提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します。
- ダイキアックスとの協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

定期アセスメント(サステナビリティファイナンス実行後) *本報告書の内容

- サステナビリティファイナンス実行に関連したダイキアックスにより提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、及びダイキアックスの主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類の評価。これらのチェックは、現在の評価ベストプラクティスと標準方法論を参照します。
- ダイキアックスの管理者との協議、および関連文書管理のレビュー。
- 現地調査および検査(必要な場合)。
- 定期評価時点での、スケジュール-1 に記載された候補プロジェクト及び資産のレビュー。
- 本書で詳述されている、定期評価の観察結果の文書作成。

DNV の意見表明(詳細は後述)はこれらを要約したものです。

VI 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の用途

DNV は、ダイキアックスが新株予約権行使で調達した資金 11.26 億円のうち、水関連インフラ事業の浄化槽製造工場の建設・運営等に 2.24 億円、Water Kiosk によるクリーンな飲料水の供給に 0.42 億円が充当されたことを確認した。ローン実行で調達した資金 8 億円は、太陽光発電システムの設計・施工・設備販売・維持管理を行う株式会社サンエイエコホームの M&A 資金として充当されたことを確認した。また、新株予約権行使による調達資金から 1.02 億円を、前述ローンへのリファイナンスとして充当したことを確認しました。

適格プロジェクト:

水関連インフラ事業：充当額 2.66 億円

- プロジェクト 01：浄化槽製造工場の建設・運営等（2.24 億円充当）
- プロジェクト 02：排水処理事業(BOO 事業^{*1}・BOT 事業^{*2})（充当無し）
- プロジェクト 03：Water Kiosk による清浄な飲料水の供給^{*3}（0.42 億円充当）

再生可能エネルギー関連事業：充当額 8 億円

- プロジェクト 04：太陽光発電事業(ローンによる借入金を M&A 資金^{*4}として全額充当)

- * 1 B O O 事業：(Build Own Operate)建設・資金調達・維持管理・運営をダイキアックスグループで行い、契約終了後は当社グループが施設の所有権を所有し続ける、または、施設を解体・撤去して事業を終了させる方式。
- * 2 B O T 事業：(Build Operate Transfer)建設・資金調達・維持管理・運営を当社グループで行い、契約終了後に顧客に施設の所有権を移転する方式。
- * 3 プロジェクト-03：インドでは政府方針として国家地方飲料水プログラム(National Rural Drinking Water Programme)に基づき、水関連の社会課題解決(全ての家庭に安全で適切な飲料水の提供をさらに可能にする)に対し、複数の水関連プロジェクトを支援している。ダイキアックスのサステナビリティプロジェクト-03 は、上記プログラムに含まれる以下の水関連の社会課題解決(出典 JJM: Jal Jeevan Mission、水生活活動)に貢献すると考えられる。インドで行政委員会(NITI Aayang)は、約 6 億人が深刻な水ストレスに直面しているとレポートしている。
 - ・ 飲料水の信頼性向上
 - ・ ポータブル水処理技術(水質向上)
 - ・ 雑排水管理
- * 4 M & A 資金：太陽光発電システムの設計・施工・設備販売・維持管理を行う株式会社サンエイエコホームの株式取得資金に調達資金を充当した。

写真-1 プロジェクト 04 太陽光発電事業(一例)



四郎丸自社発電所



鴨内発電所(分譲)

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、スケジュール 1 に記載される水関連インフラ事業及び再生可能エネルギー関連事業に含まれる 4 つの候補プロジェクトが、ダイキアックスの経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、「I 項 目的とスコープ 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアを満たすことをダイキアックスの関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたことを確認しました。プロジェクトの実行に当たっては適格クライテリアに合致すると共に、「サステナビリティプロジェクト選出における前提条件」として下記を実施もしくは実施予定であり、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していることを確認しました。

＜サステナビリティプロジェクト選出における前提条件＞

- ・ 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等)
- ・ 地域コミュニティへの対応

(3) 調達資金の管理

DNV は、ダイキアックスが新株予約権行使及びローン実行により資金を調達してから 2022 年 2 月までの期間、どのように調達資金を追跡管理しているかについて提示された証憑を確認しました。DNV はダイキアックスが調達資金を資金充当期が到来した適格プロジェクトへ順次充当したこと、及び充当する計画であることを確認しました。資金充当状況については、ダイキアックスの内部経理管理手順に基づき支出し、財務部(経理財務課)が管理していること、及び管理することを確認しました。ダイキアックスは、会計年度毎に未充当資金の残高(新株予約権行使後及びローン実行による調達～充当までの期間にある調達資金の残高(現金または現金同等物))をレビューしていることを確認しました。

2022 年 2 月の時点において、調達額 19.26 億円のうち、10.66 億円を当該プロジェクト 01、03、04 に充当しています。そのほか、1.02 億円をプロジェクト-04 へのリファイナンスとして充当しました。未充当資金額は、7.57 億円です。

なお、先述の通り、DNV はサステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境改善効果に関する保証も提供しません。

(4) レポーティング

DNV は、GBP、GLP、SBP をはじめとする基準やガイドラインで要求される特定の情報に関し、ダイキアックスのウェブサイトで年次報告していることを確認しました。これら情報公開には、プロジェクト毎(プロジェクト 01~04)に、調達資金の充当と管理状況、対象プロジェクトと進捗、及び関連する定性的・定量的な環境及び社会課題改善効果についての記載が含まれていることを確認しました。環境改善効果についてはレポーティング方法に関連するハンドブック「インパクトレポーティング調和化に関する冊子」を参照し、機密性を考慮して開示していることを確認しました。具体的には以下の通りです。

-1- 調達資金の充当と管理

調達資金の充当と管理については大半の充当が完了するまでの間、開示する予定です。開示の際は新株予約権行使及びローン実行による調達資金を区別して開示していることを確認した。

- (1) 調達資金を充当したサステナビリティプロジェクト毎の設備投資額：スケジュール-1 参照
- (2) 調達資金のうち、未充当資金の額：7.57 億円

-2- 対象プロジェクトと進捗状況

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの所在、名称、生産品目、生産能力等の情報(機密性を考慮)
- (2) 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況(例：建設中の場合はその状況 完成予定時期等)

-3- 環境・社会課題改善効果

- (1) プロジェクト-01：浄化槽製造工場の建設・運営等
進捗状況：インド・ハリヤナ州に新工場建設中（2022 年 9 月稼働予定、年間生産能力約 350 台）
- (2) プロジェクト-02：排水処理事業(BOO 事業・BOT 事業)
資金充当前につき、2022 年 2 月時点での具体的な進捗はありませんでした。
- (3) プロジェクト-03：Water Kiosk による清浄な飲料水の供給
稼働状況：稼働中
設置場所：インド ウッタラーカンド州
設置基数：24 基
飲料水の供給量：133m³/年
- (4) プロジェクト-04：M&A を行った太陽光発電システムの設計・施工・設備販売・維持管理を行う株式会社サンエイエコホームの保有する資産概要
 - 自社保有の太陽光発電施設(FIT による売電)（2022 年 2 月時点）
 - 電力供給開始施設数：2 施設
 - 電力供給開始施設の出力：1,082kW
 - 年間発電量：132,766kWh
 - 環境改善効果：61,338kg-CO₂/年



- 販売した太陽光発電施設(分譲) (2022年2月時点)
 - 販売数: 13 施設
 - 総出力: 727.92kW

※環境改善効果の評価は、以下の方法により算出しています。

CO_2 削減量 = 発電量(kWh)× CO_2 排出係数(kg- CO_2 /kWh)

*発電量: 太陽光発電事業及び風力発電事業の実績値

* CO_2 排出係数: 「温対法に基づく事業者別排出係数」より CO_2 排出係数の全国平均値

ダイキアックスは、ダイキアックスサステナビリティファイナンスが関連する基準に継続的に適合していることの確実性(整合性)、客観性を高めるために、DNV から本レビューを取得しました。またプロジェクト完工後 1 年後までに次回レビューを取得予定です。

評価結果

DNV は、ダイキアックスから提供された情報と実施された業務に基づき、ダイキアックスが実行したサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)は適格性評価手順の要求事項を満たしていること、そしてサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)の定義・目的である「環境及び社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2022 年 4 月 25 日



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



香取 剛

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

スケジュール-1 ダイキアックス サステナビリティファイナンス 充当プロジェクト詳細及び資産概要

No.	プロジェクト ポートフォリオ		プロジェクト分類 [環境・社会面]	プロジェクト サブ分類	調達額	充当額	資産概要 (概要、製品仕様、設置場所、等)
01	環境機器 関連事業 (水関連イン フラ事業)	浄化槽製造工場の建設・運営等	環境 -持続可能な水資源および廃水管理 -汚染防止と管理	環境・社会 -生活・事業場排水による周 辺地域の環境汚染を防止す るための廃水処理システム -公共水域浄化システム	総額：19.26 億円 (内訳) ・新株予約権： 11.26 億円 ・ローン：8 億円	2.24 億円 (2022年2月時点)	- プロジェクト名：インド新工場建設 - 所在地：インド ハリヤナ州 - 生産品目：生活排水対応浄化槽 - 生産能力：約 350 台/年 - 進捗状況：建設中 (2022 年 9 月稼働予定)
02		排水処理事業(BOO 事業・BOT 事業)	社会 -手ごろな価格の基本的インフラ設備			充当無し (2022年2月時点)	概要 ：BOO・BOT事業による排水処理システムの提供 -製品仕様(例) ：生活排水対応浄化槽
03		Water Kiosk によるクリーンな飲料水の供給(インド)	社会 -手ごろな価格の基本的インフラ設備 (飲料水) -必要不可欠なサービスへのアクセス (健康)	環境・社会 クリーンな飲料水の供給		0.42億円 (2022年2月時点)	- 所在地：インド ウッタラーカンド州 - 生産品目：WaterKiosk によるクリーンな飲料水の供給 - 生産能力：133m ³ /年 - 稼働状況：24 基設置
04	再生可能エ ネルギー関連 事業	太陽光発電事業の開発・運営・設備販売 等	再生可能エネルギー [エネルギー起源 CO ₂ 削減]	太陽光発電事業(陸上)	8 億円 (2022年2月時点)	2021 年 10 月 1 日に、太陽光発電システムの設計・施 工・設備販売・維持管理を行う株式会社サンエイエコホー ムの株式取得資金に調達資金を充当 保有の太陽光発電施設(FIT による売電) 保有施設数：24 件／総出力：3,307kW (2021 年 10 月時点) 【稼働済みの施設】 - 電力供給開始施設数：2 施設 - 電力供給開始施設の出力：1,082kW - 年間発電量：132,766kWh - 環境改善効果：61,338kg-CO ₂ /年 販売した太陽光発電施設(分譲)	

No.	プロジェクト ポートフォリオ	プロジェクト分類 [環境・社会面]	プロジェクト サブ分類	調達額	充当額	資産概要 (概要、製品仕様、設置場所、等)
						保有施設数：35 件／総出力：1,564kW（2021 年 10 月時点） 【販売済みの施設】 - 販売数：13 施設 - 総出力：727.92kW

スケジュール-2 ダイキアックスサステナビリティファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト SF-1～SF-4 は、グリーンボンド原則 2021、グリーンローン原則 2021 をはじめとする関連基準で定められる 4 つの核となる要素にもとづき、サステナビリティファイナンス適格性評価用に作成された DNV 手順です。*SF; Sustainability Finance, サステナビリティファイナンス

SF-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	サステナビリティファイナンスの種類は GBP 等で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)サステナビリティファイナンス ・レベニューファイナンス ・プロジェクトファイナンス ・その他	確認した文書類： - ダイキアックス サステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、ダイキアックスフレームワーク) ダイキアックス関係者との協議	評価作業を通じダイキアックスサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)は以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 ・その他 新株予約権行使及びローン実行により調達した資金をダイキアックスサステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、ダイキアックスフレームワーク)に基づき、環境及び社会貢献が明確にされた適格プロジェクトへの資金充当、プロジェクトの評価及び選定、調達資金の管理及びレポートングを実施するものである
1b	サステナビリティ(グリーン及びソーシャル)プロジェクト分類	サステナビリティファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がサステナビリティプロジェクトのために使われることであり、そのことは、サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアックスフレームワーク - 適時開示資料 - ダイキアックスウェブサイト ダイキアックス関係者との協議	ダイキアックスフレームワークの中で特定されたプロジェクトが GBP、GLP 及び SBP をはじめとする基準で分類される代表的な以下の適格カテゴリーに該当することを確認した。 環境貢献(グリーン) - 持続可能な水資源および廃水管理 - 汚染防止と管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
				- 再生可能エネルギー 社会貢献(ソーシャル) - 手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水) - 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)
1c	環境面及び社会面での便益	調達資金使途先となる全てのサステナビリティプロジェクトは明確な環境面及び社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアックスフレームワーク ダイキアックス関係者との協議	DNV は、適格プロジェクトのうち、水関連インフラ事業の実行では、生活排水処理、事業場排水処理、公共水域浄化及び正常な飲料水の提供により、1b で示す環境貢献及び社会貢献に資することを確認した。これらは、排水処理量(km ³ /年)や飲料水の供給量(km ³ /年)として定量的に評価され、また、機器の製造・出荷数や設置した施設数が定期レポートで開示される予定である。適格プロジェクトのうち、太陽光発電事業の実行では、連係工事完了後の発電施設の稼働及び、売却完了後の発電施設の稼働により、1b に示す環境貢献に資することを確認した。これらは環境改善効果として定量的に評価され、自社保有する連係工事済みの発電施設数、発電施設の出力(kW)、年間発電電力量(kWh)及びCO ₂ 削減量(t-CO ₂ /年)や、開発・設備販売した施設の出力(kW)が定期レポートで開示される予定である。 DNV はアセスメントを通じ、プロジェクト実行に関連する環境・社会影響リスクは以下の観点で考慮されており、相対的に少ないと判断した。 - 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等) - 地域コミュニティへの対応 また、プロジェクト-03 についてはインド中央政府(水環境省)が掲げる“Jal Jeevan Mission(JJM)”のうち飲料水問題解決に対する取組みであることを確認している。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： - ダイキアックスフレームワーク ダイキアックス関係者との協議	新株予約権行使で調達した資金 11.26 億円のうち、水関連インフラ事業の浄化槽製造工場の建設・運営等に 2.24 億円、Water Kiosk によるクリーンな飲料水の供給に 0.42 億円が充当されたことを確認した。 ローン実行で調達した資金 8 億円は、太陽光発電システムの設計・施工・設備販売・維持管理を行う株式会社サンエイエコホームの M&A 資金として充当されたことを確認した。 また、新株予約権行使による調達資金のうち 1.02 億円が、前述ローンへのリファイナンスとして充当されたことを確認した。

SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>サステナビリティファイナンスの発行体は調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトが適格なサステナビリティ(グリーン、ソーシャル)プロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス 調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての基準作成 環境面、社会面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイキアックスフレームワーク ダイキアックス関係者との協議 	<p>ダイキアックスフレームワークに基づき、ダイキアックスは以下の基準に従いプロジェクトの選定を行ったことを確認した。</p> <p>適格プロジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュール 1 に記載されるサステナビリティプロジェクトが、ダイキアックスの経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、またダイキアックスフレームワークに記載する適格クライテリア[グリーン性(環境貢献)及びソーシャル性(社会貢献)]を満たすことをダイキアックスの関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたこと。 プロジェクトの実行に当たっては「I 項 スコープと目的 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクト選定の際に、「選出における前提条件」として下記を実施もしくは実施し、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していること。 <p><サステナビリティプロジェクト選出における前提条件></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施、等) 地域コミュニティへの対応
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>サステナビリティファイナンスプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、投資家は発行体のフレームワークや環境性及び社会性に関する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイキアックスフレームワーク ダイキアックス経営理念、中期経営計画他 ダイキアックス関係者との協議 	<p>DNV は文書及びインタビューを通じたアセスメントにより、ダイキアックスが経営理念(コーポレートスローガン) 及び中期経営計画(ESG 経営の推進)を通じ、環境機器関連事業のうち水関連インフラ事業が持続可能な社会に貢献する方針であることを確認した。また、ダイキアックスが開示している決算説明会資料等でサステナビリティプロジェクトを含む成長戦略を示しており、持続性のある活動であることを確認した。ダイキアックスはサステナビリティプロジェクトによる環境及び社会課題の改善効果について、フレームワークに基づいて年次レポートする計画である。</p> <p>また、ダイキアックスとの協議及び文書レビューにおいて、DNVはダイキアックスの実施するサステナビリティプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効な事業であるということを確認した。</p>

SF-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	サステナビリティファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、サステナビリティプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアックスフレームワーク - ダイキアックス内部管理規程文書類 ダイキアックス関係者との協議	DNVは文書レビューとインタビューにより、サステナビリティファイナンスで調達した資金はダイキアックスの一般的な会計口座に入金され、その後、経理管理規定や文書管理規定に基づく内部プロセスを用いて適格プロジェクトに充当されたことを確認した。実際の支出は入出金伝票に基づき確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	サステナビリティファイナンスを管理すべき期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアックスフレームワーク - ダイキアックス内部管理規程文書類 ダイキアックス関係者との協議	DNVは文書レビューとインタビューにより、ダイキアックスがサステナビリティファイナンス発行後(新株予約権行使後もしくはローン実行後)からプロジェクト充当までの期間、どのように資金を追跡管理しているかについて確認した。DNVは、新株予約権行使で調達した資金11.26億円のうち2.66億円、及びダイキアックスがローン実行で借り入れた8億円を、サステナビリティプロジェクトへ新規充当したことを確認した。また、新株予約権行使による調達資金のうち1.02億円を、前述ローンへのリファイナンスとして充当したことを確認した。ダイキアックスは少なくとも会計年度毎に定期的にサステナビリティファイナンスの未充当資金の残高をレビューしていることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるサステナビリティプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアックスフレームワーク - ダイキアックス内部管理規程文書類 ダイキアックス関係者との協議	ダイキアックスは調達資金について、プロジェクトの進捗状況に応じ、適時充当(新規投資)もしくはリファイナンスとして支出する予定であり、新株予約権行使で調達した資金のうち未充当資金について、現金または現金同等物で管理していることを確認した。

SF-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はサステナビリティファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> -ダイキアキスフレームワーク -ダイキアキス関係者との協議 	<p>ダイキアキスはサステナビリティファイナンスで要求される特定の項目についてダイキアキスウェブサイトにて年次で情報開示を行っている。</p> <p>ダイキアキス サステナビリティファイナンス https://www.daiki-axis.com/company/sustainable/sf/ 2021年度 ダイキアキスサステナビリティファイナンス レポーティング https://www.daiki-axis.com/official/wp-content/uploads/2021/11/2021Sustainable-Finance-report.pdf (2021年11月)</p> <p>情報開示には資金充当状況、プロジェクト進捗状況、環境及び社会貢献に関連する定性的及び定量的な報告が含まれる。具体的には、自社保有の太陽光発電施設における電力供給開始施設数及び電力供給開始施設の出力、売却した太陽光発電施設の出力をウェブサイトで報告している。</p>